

鴻 koh

月刊俳句誌

平成31年3月1日発行

(毎月1回1日発行)

第14巻第3号 通巻153号

3 月号

2019



なまはげが来るぞこれほど雪積みめば

少しだけ爪切つて年越しにけり

正座して吉書の墨を磨りゐたる

あらたまの仲見世をゆく肩車

吉原二丁目ひつそりと寒雀

試し吹くぽつぺんの塵拭うては

落款を捺す書初めの一行詩

雲駈けよ駈けよ成人祭の朝

米原で降りたぐひなき冬日和

枯萱となりし水辺のあたたかし

朝市の端の刃物屋風花す

あつけなく雪となりたる関が原

欠伸して伸びして良寛忌の夕べ

雲駈けよ

主宰作品

増成栗人

荒川心星

落葉踏む音

薄紅葉そこだけは瀬のゆるやかに
兎跳び跳んで藤原京の夕
産土の山河冬枯稿を継ぐ
寒林に闇あり闇の匂ひくる
法螺貝を先頭にゆく枯木山
冬の菜を洗ふ水辺に日の溜る
神祀る山包むかに冬の霧
妻癒えよ落葉踏む音水の音

書き込みの多き譜面や冬早
冬牡丹高きを鳥の声移る
松迎午後より翳る湖の面
背を向ける鴨らに大き波のくる
大通寺裏門前の掛大根
雪吊りのうしろを湖の光かな
境内に電球吊るす年用意
振舞ひの甘酒を吹き弓始

冬早

半谷洋子



羽音集

増成栗人 選



風鎮に冬日やさしく届きけり 我孫子 相川 健
 一山の枯れきつてなほふくよかに
 冬ざる旅の埠頭のカレーの香
 エンジンのやうやく掛かる雪催
 山茶花や漏れ聞え来るアベマリア
 いてふ散る無声映画を観るごとく 松戸 山岸明子
 朴落葉ややあけてまた朴落葉
 大和まほろば美しき夕紅葉
 レノン忌のこんな赤き冬薔薇
 冬空に第九の調べ届きしか
 ひよつとことおかめゆらゆら里神楽 横須賀 鈴木 崇
 神田界限スエード靴で落葉踏む
 珈琲で酔ひ覚ましたるレノンの忌
 餅搗きの音が蕉翁の碑のあたり
 年の瀬や古書に掛かりしパラフィン紙
 寒椿ドクターヘリの着陸す 船橋 藤原明美
 神迎へ丸まつて飛ぶ鮑屑
 番鳩師走の日ざしやはらかに
 小豆炊く母との時間戻り来る
 白菜の括りを解けば風の音

谷口摩耶



探梅

物語のやうな香りよ臘梅は
 あたたかき大寒を行くスニーカー
 窓際を飾りなほして日脚伸ぶ
 玄関ドアに悦惚と冬の蠅
 平成の終り近づく枇杷の花
 水仙や間隔長き昼のバス
 笹鳴を聴きつつ歩く森の径
 空よ嗚呼探梅は夢さがすごと

茶庵閑話

虫丸

